

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | | |
|----------------|--------------|----|--------|--|-----------|
| ○事業所名 | 児童発達支援 Unité | | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年1月15日 | | ～ | | 令和8年2月14日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 13 | (回答者数) | | 6 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年1月15日 | | ～ | | 令和8年2月14日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) | | 4 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和8年2月15日 | | | | |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) | | 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年3月19日 | | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 訪問支援員に作業療法士がいる | 作業療法士が在籍しており、こどもの特性に応じた専門的な評価や助言が行える体制が整っている。 | 作業療法士の専門性を職員全体で共有し、支援の質をさらに高めるための研修や情報共有の機会を増やしていきたい。 |
| 2 | 一緒に考えられる体制や関係づくり | 園の先生方と対等な立場で話し合い、互いの視点をすり合わせながら、無理のない実践的な支援方法を心がけている。 | 訪問先の状況や先生方の負担感に配慮しながら助言を行っているが、園の実情により馴染みややすい形に調整する工夫をさらに深めていきたい。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 訪問支援支援員の人材確保 | 人員配置により訪問支援員が確保できない時がある。 | 訪問支援員を増員などの人材確保経験者を増やしていく。 |
| 2 | 訪問支援における情報共有のばらつき | 訪問先の業務状況や時間帯によっては、相談やカンファレンスの時間が十分に確保できない場合がある。 | より共有しやすい方法や連絡手段の工夫が必要であり、園等ごとに確立する必要がある。 |
| 3 | 家族との距離を埋めるための工夫 | 保育所等訪問支援のみ利用児との関係構築の難しさ。 | 事業所で日常的に関わる機会が少ないため、関係構築に時間を要する場合がある。今後は、訪問時の関わり方や視覚的支援の活用など、限られた時間の中でも安心して関われる工夫をさらに検討していきたい。 |